

経営のヒント178 変化の時代は試すことが重要

人生は、見たり 聞いたり 試したりの三つの智恵でまともしている

参照著書 逆境を生き抜く名経営者、先哲の箴言 北尾吉孝 朝日新書

人生は見たり 聞いたり 試したりの三つの智恵でまともしているが、
その中で一番大切なのは 試したりであると僕は思う

本田技研工業の創業者、本田宗一郎さんの言葉です。

「人生は見たり 聞いたり」というのは、誰でも思いつく。

そこに本田さんは「試したり」と付け足している。この部分がまさに技術屋たる本田宗一郎流だ。

実際、本田さんはその「試したり」ばかりを自分自身で実践し、その「試す」風土をホンダといふ会社に植え付けてきた。

だから、冒頭の言葉は次のように続いている。

世の中の技術者は見たり 聞いたりが多くて、試したがりがほとんどない。

僕は見たり 聞いたりするが、それ以上に試すことをやっている。

その代わり失敗も多い。

ありふれたことだけれど、失敗と成功はうらはらになっている。

みんな失敗をいとうものだから、成功のチャンスも少ない。

今起きている時代の流れ、ガソリン車から電気自動車へという流れは、経済学者シュムペーターの言葉でいえば、イノベーションによる「不連続の発展」という現象だ。

シュムペーターは「経済発展の理論」といふ書で次のようなことを述べた。

幌馬車が二頭立てから四頭立て、八頭立てと増えるのは連続の発展である。

スピードも多少早くなるし、距離も多少伸ばすことができる。

しかし、馬の数を多くするだけでは限界がくる。

馬を宿場で休ませねばいかないし、馬の数が増えれば道路の幅も必要になる。

この発展は旧来の連続の上に成り立っている。

しかし、本当の発展はえてしてそうした連続上ではなく、不連続なかたちで生まれる。

幌馬車という乗り物の場合は、蒸気機関車が取って代わったことが、不連続な発展だ。

不連続の発展が起きると、産業や社会のステージが劇的に変わる。

例えば、電話とファックスの時代から、インターネットと携帯電話の時代となって、劇的な変化が起きた。

それを今多くの人が実感しているだろう

変化の時代は「試す」ことが重要。

目を転じれば、今その不連続の発展が自動車の世界で起ころうとしている。

ガソリンから電気へ。

そういう変化の時代に、先を見越して次の一手を打つのが経営では重要だし、本田宗一郎さんのように「見たり 聞いたり」だけでなく、「試したり」まで踏み込むのが大事なのではないかと思う

<経営のヒント>

変化の時代は「試す」ことが重要。

「未来は誰にもわからない」ということがわかっているのです。(ドラッカー曰く)

だから、「仮説を立てて、試してみる」ことが大切なんですね。

過去の延長上に未来はない!

未来が現在をのみこんでいる! (アルビン・トフラーが第4の波でそう言っています)